

青雲

25号 2023.3

発行人／一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会

「青雲」

—— 題 字 ——

元島根県知事 澄田信義 氏



『進化』

出雲ドームは古代最大の木造建築・出雲大社を有する出雲市に、日本の伝統文化である木造建築をいかに現在の大きな空間構造として蘇えらせるかというコンセプトで設計されたといわれています。木造建築の技術が古代から名もなき職人や技術者の手を通して、脈々と受け継がれ、そして「進化」を続けています。

我々青年部会も先輩から受け継いだ今の最高を、青年らしい行動と自らの力で「進化」させ、それを後輩に繋いでいけるよう、精一杯努力をしてみたいと思います。

一般社団法人

島根県出雲地区建設業協会青年部会 総務広報委員会

青雲

25 MAR. 2023 VOL.25 CONTENTS

【巻頭言】

1 次の未来へ

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会 部会長 岩崎 利行

【次世代建設就業者育成事業】

2 次世代建設就業者育成事業の背景と目的／現場見学会の概要

3 令和3年度出雲湖陵道路東神西地区改良工事見学会の様子

4 建設機械搭乗体験／斐伊川放水路事業説明

5 現場見学会に参加して(出雲農林高等学校 参加生徒の感想)

8 しまね建設産業イメージアップ女子会

9 アンケート結果

10 次世代建設就業者育成事業(現場見学会)を実施して感じること(考察)

経営研究委員会 委員長 神田泰弘

11 出雲農林高校(環境科学科)中学生一日体験入学支援事業

経営研究委員会 委員 安部希芳

【令和4年度事業報告】

12 第23回ふるさとまるごとクリーンアップ作戦 地域貢献委員会 委員長 山口匡史

13 意見交換会2022 会員交流委員会 委員 斎藤貴弘

14 創立25周年記念研修視察 会員交流委員会 委員長 落合和典

創立25周年記念祝賀会 総務広報委員会 委員長 嘉藤雅士

15 放水路記念館まつり 地域貢献委員会 委員 日野 肇

16 新入会員紹介 大福工業(株) 福代 忠

昭和開発工業(株) 斎藤貴弘

(株)フクダ 福田佳典

ヒカワ工業(株) 福田哲也

18 編集後記 総務広報委員会 副委員長 福代 忠

次の未来へ

一般社団法人

島根県出雲地区建設業協会青年部会

部会長 岩崎利行



国内で最初の新型コロナウイルス感染者が確認されてから、初めての行動制限を伴わない年末年始を迎えました。島根県内では過去最多の感染者数が発表され、減少と増加を繰り返しながら、新型コロナウイルスと上手に付き合い日常を取り戻す必要があると感じています。

また、昨年2月にロシアによるウクライナ侵攻が始まり世界中が震撼しました。一般市民にも多くの犠牲者が出ています。また、この侵攻によって、コロナから回復しつつあった世界経済を混乱させ、大きなマイナス影響を与え、エネルギーだけではなく、肥料や穀物、半導体、金属、木材等においても異常な価格高騰を生み、世界的なインフレを急加速させています。

さて、私たち一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会は、令和4年度で創立25周年を迎えることができました。これも偏に、出雲地区建設業協会をはじめ先輩諸兄や関係者の皆様のご指導の賜物だと思えます。改めて皆様に心より感謝申し上げます。

令和4年度、我々出雲地区の建設業者は、一昨年7月に発生した豪雨による災害復旧工事に追われました。発注者と受注者の垣根を越えて、何でも話し合える環境にあるからこそ、人手不足が常態化している中でも、地域を守る仕事をなんとか熟せているのだと実感しました。これも先輩諸兄の活動の中で、我々の置かれている状況を発信し、そして「地域のインフラを守るためにはどうすれば良いのか」という発注者と受注者同じ共通認識をもってきたからだと思えます。

我々地元の建設業者は地域のインフラを守る重要な役目を果たしているのにもかかわらず、なぜかマスコミに取り上げられることがありません。災害が発生したとき真っ先に駆けつけて昼夜を問わず復旧作業に追われていても、取り上げられるのは自衛隊やレスキュー隊です。地元の人に感謝されても、我々の地域のインフラを作りそして守っている、とても意味のある仕事が広く一般の方に伝わることはありません。

我々青年部会では、次世代建設就業者育成事業として継続して地元高校生を対象として現場見学会や、中学生を対象とした建設機械の搭乗体験。また実行委員会の一員として参加している「放水路記念館まつり」など様々な年代の若者や子供たちに建設業の魅力を伝える活動を行っています。

働き方改革や建設業のDX化など、対応しなければならない新たな制度や技術を抱えています。これらを課題と捉えることなく、建設業の魅力を高めていくチャンスだと考え、若い力と新しい知恵を発揮し、魅力ある地域建設業をつくるために取り組んで参ります。

引き続きご理解ご支援のほどを何卒よろしくお願い申し上げます。



次世代建設就業者育成事業の背景と目的

建設業は国民の生活基盤である住宅・インフラ整備、安全安心な国土の保全・整備、経済活動の基盤となる施設の整備等を行う役割を担っています。また、地域においては、地域経済を下支えする基幹産業としての役割を果たしており、災害時においてはその保有する人材、資材、機材を活用し迅速に対応して、地域社会の復旧・復興に貢献します。

このように建設業は地域になくてはならない産業で、多くの使命を担うかっこよさややりがい、楽しさを高校生に体験してもらいたい、また働き方改革や最新の技術の発展により働きやすくなった業界であることを知ってもらいたいと思い、出雲農林高等学校の生徒に向けて現場見学会を実施いたしました。青年部会としてはこの見学会を通じて一人でも多くの生徒が建設業に興味を持ち、就職したいと思ってもらえる契機となるべく実施しております。

現場見学会の概要

- 学校名 出雲農林高等学校
- 開催日 令和4年10月25日(火)
- 参加者 出雲農林高校 2年生28名 教員2名

9:15~11:30	<p>●現場見学会</p> <p>○発注者 国土交通省 中国地方整備局 松江国道事務所 受注者 今岡工業 株式会社 工事名 令和3年度出雲湖陵道路東神西地区改良工事 施工場所 出雲市東神西町</p> <p>(内容)</p> <p>国土交通省中国地方整備局松江国道事務所 建設監督官 中山様より事業概要の説明 今岡工業 株式会社 竹田様より工事概要の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3D測量データを用いた工事説明 ・VR体験 ・ドローン操縦体験
12:00~13:00	昼食・休憩
13:00~14:50	<p>●建設機械搭乗体験</p> <p>実施場所 斐伊川放水路残土処理場跡地(上塩冶スポーツセンター横)</p> <p>(内容) ○建設機械搭乗体験 協力会社:株式会社 板倉重機</p> <p>バックホウ 0.7m³級 2台 アーティキュレートダンプ 2台 4tローラー 1台</p> <p>○しまね建設産業イメージアップ女子会によるパネル展示・説明</p>
15:00~16:00	<p>●斐伊川放水路分流堰見学</p> <p>(内容) 出雲河川事務所岩井様による事業内容や放水・維持管理方法などの説明</p>

令和3年度 出雲湖陵道路東神西地区改良工事



松江国道事務所 建設監督官 中山様より事業概要の説明



今岡工業(株) 竹田様より工事概要の説明

初めての貴重な体験
楽しい!!



高所作業車の搭乗体験



ドローン操縦体験

思っていたより難しい...
自由自在に操作する現場の人達
凄い!!



ミニバックホウの操縦体験



現場の安全対策をVRで体験

建設機械搭乗体験



斐伊川放水路事業説明



出雲河川事務所 岩井様による事業説明



管理棟内での説明

現場見学会に参加して



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 黒田 彩香

今回の現場見学では、主に建設現場へ伺い、様々な体験をしました。

午前中は出雲湖陵道路東神西地区改良工事の現場へ行きました。この現場では、VRを使用した現場見学、高所作業車の試乗体験、試乗とVRによる重機体験、ミニバックホウの操縦体験、VRでの現場安全対策の体験などをしました。

私は最初にVRでの重機体験をしました。事前にオペレーターさんが360°カメラで撮られた動画を、VRゴーグルをかけて見ました。360°なので上下左右見ることができ、オペレーターさん目線で見ると意外と座っている位置は高く、手元を見るとモニターを見ながら操作しておられました。次は高所作業車に乗りました。12mも上がるので出雲市の景色を一望することができましたが、高所作業車に乗って実際に作業するとなると、安全面に大きく注意しながらの作業になるので、危険も伴う大変な作業だと思いました。続いて大型重機の搭乗体験では、ICTを活用した重機でモニターが付いており、それを見ながら作業することで、より正確に作業できるのだと分かりました。大型の重機で乗り降りが大変でした。ミニバックホウは実際に操縦体験をしました。初めてのことでなかなか難しく、現場で実際に重機を手足のように扱っておられる方々の凄さや技術力の高さに驚きました。最後にVRでの現場安全対策の体験をしました。VRゴーグルとヘッドホンを着用し、足場を組んでいる際の転落事故の映像を見ましたが、VRでの体験にもかかわらず落ちるところはとても怖く、安全対策をしっかりして作業しないと死に関わる大事故につながってしまうということを知りました。

午後は重機の搭乗体験をしました。一番印象に残っていることがダンプの操縦体験です。もちろん初めての体験でしたので緊張しました。アクセルを思いっきり踏んでいると思っても意外とスピードが出ていないことや、バックする際、サイドミラーを見ながら動かすことがとても難しかったです。オペレーターの方に教えていただきながら、ゆっくりとしたスピードで、安全に運転することができました。その他にも、大型のバックホウの試乗体験もしましたが、午前中に乗ったバックホウよりもはるかに大きくて驚きました。大型なので操作もなかなか大変でしたが、何度もやっていく内に慣れてきました。また、搭乗体験の合間に建設業では女性も活躍しているという話を聞くことができました。

その後、斐伊川放水路分流堰の見学へ行きました。この放水路があることで、大雨の時でも、洪水の被害を減らすことができる大きな役割を担っているということを知りました。放水路はとても大きく、工事期間が20年以上もかかったと聞いて驚きました。実際に、近くにある管理棟の中に入れていただき、今はボタン一つで放水路のゲートを開閉することができるのですごいなと思いました。

今回の現場見学は、初めての経験ばかりだったので新鮮な気持ちでした。また、建設業に興味、関心を持つことができました。とても多くの貴重な経験をすることができたのでよかったです。

現場見学会に参加して



島根県立出雲農林高等学校

環境科学科2年 山本 雅尚

10月25日の火曜日に行われた現場見学会では、土木工事は危険もありますが、人よりも圧倒的に大きい重機を操作する楽しさや、作ったものが残る魅力があり、とてもやりがいがあることを改めて知りました。

最初に訪れた出雲湖陵道路東神西地区改良工事の現場見学では、ミニバックホウで地面を掘ったり、ブルドーザーに乗って雰囲気を感じたりしましたが、レバーの操作がぎこちなくなっていました。バックホウの操作はインターンシップでも少し体験させていただいたので覚えていましたが、やはり現場の人たちのように自分の手足のように動かすことはできず、難しかったです。また、VRで、実際に起きた事故を再現した3Dアニメや、現場で働いておられる人のバックホウのレバー操作を体験しました。工事は危険も隣り合わせであることを改めて理解し、油断してはならないと思いました。最後に、ドローンを上空へ飛ばして、出雲市の町の写真を撮りました。ドローンの操作は難しいですが、貴重な体験することができて良かったです。

次は、建設機械の搭乗体験をしました。この体験は印象に残ったことも多く、楽しかったです。ここでは、約20t以上のサイズを誇るバックホウと土や泥などを運搬する大型ダンプ、地面を固めるロードローラーなどの建設機械を操縦しました。バックホウのサイズが大きいと、乗るときに座る位置が高く、レバーの操作も難しく感じました。掘削に少し苦戦してしまい、サイズが違くと操作をするときの感覚も違ってくるのだとよく分かりました。

また、イメージアップ女子会の方たちのお話を聞き、測量会社や土木業界に入る女性が少しずつ増えていることを知りました。お話を聞いたことで、土木業界に対する見方が変わりました。

小型ロードローラーの運転では、右手のレバーをまっすぐ押すと、そのまま直線に走り、左手にあるハンドルを回すと回した方向に曲がるというシンプルな操作でした。初めて運転するので、なかなか慣れなくて難しかったのですが、普段の学校生活では乗ることのできない重機を実際に運転することができて良かったです。一方で、一番怖かったのはダンプの運転でした。普通の車とほぼ同じ運転に近く、アクセルを踏みすぎたらどうしようと思ってしまいました。バックが一番難しく、ミラーや後方カメラを見ながら行いました。しっかりと最初の位置まで戻れているのか心配でした。

どの建設機械も運転が難しく、怖さや、危険を少し感じる一方、初めて触れるものばかりで、とても楽しかったです。それも実際に操作しながら学ぶことができ、とても勉強になりました。なかなか経験のできない貴重な体験ができて良かったです。

現場見学会に参加して



島根県立出雲農林高等学校

環境科学科2年 和田結芽

今回の現場見学では、出雲湖陵道路東神西地区改良工事、建設機械搭乗体験、斐伊川放水路分流堰の見学に行かせていただきました。

まず、はじめに行った高速道路の現場では、1年生のときにも高速道路の現場は見学に行ったことがあったのですが、現場に行くと、とてもスケールの大きな工事をしていて、やはり高速道路の工事はすごいなと改めて思いました。また、ICT活用の話は少し聞いたことがあったのですが、実際に重機に搭乗して説明を受けたのは初めてのことだったので、とても勉強になりました。班に分かれての見学では、ドローンの飛行体験やVRを使用した現場での安全対策体験、高所作業車試乗体験、VRによる重機体験などをさせていただきました。私が特に印象に残ったのは、ドローンの飛行体験と高所作業車の試乗体験でした。私はドローンを見たことは何度かありましたが、操縦は初めての体験だったのでとても楽しかったです。思っていたよりも操縦が難しく、自由に飛ばしておられる現場の方はすごいと思いました。高所作業車の試乗体験では、初めて乗るといふこともあり、高いところは少し怖く、ここで作業するのは大変そうだと思います。

次の建設機械の搭乗体験では、大型バックホウ、ダンプ、ロードローラーに乗せていただきました。私は、バックホウはインターンシップで乗ったことがありましたが、大型バックホウは乗ったことがありませんでした。少し怖かったのですが、落ち着いて操縦することができて良かったです。ダンプもとても大きくて、なかなかアクセルが踏めませんでした。指導してくださった方が優しく教えてくださり、無事に終わることができてホッとしました。また、順番を待っているときに女子会の説明をしてくださり、とても楽しく体験の時間を過ごすことができました。

最後の斐伊川放水路分流堰見学では、放水路の中に入って説明をしていただきました。斐伊川の放水路には約 $2000\text{m}^3/\text{s}$ の水を流すことができるそうで、とても多い量でまったく想像がつかせませんでした。分流の実績を話していただいた際には、意外と最近も分流が行われていることを知り、今、私たちが何事もなく暮らしているのはこの放水路があるおかげなのだと感じました。また、分流堰を操作する部屋を見させていただいたときは、大きなモニターやパソコンが並べられていて、とても迫力がありました。

今回の現場見学では、今までに行ったことがないところにもたくさん行き、経験したことがないこともたくさん体験できました。この経験を自分の進路選択に役立てていきたいと思います。

しまね建設産業イメージアップ女子会



株式会社 フクダ 加本 雅美

令和4年10月25日、出雲農林高校の2年生を対象とした現場見学会に「しまね建設産業イメージアップ女子会」（以下「女子会」）として参加させていただきました。

午後から行われた重機搭乗体験の待ち時間に、女子会活動のPRや「しまね建設産業イメージアップカレンダー」を見ていただきながら、建設業で活躍する女性達の素顔などもお話しさせていただきました。カレンダーモデルとなった女性も参加し、日々の業務や休日の過ごし方なども話すことができたので、生徒さん達も具体的なことがわかるいい機会になったと思います。生徒さん達の質問や率直な意見を聞き、私たちにとってもこれからの働き方などについて考えるいい機会となりました。

ここで重機搭乗体験について一言。特に「アーティキュレートダンプ」は建設現場でもなかなか目にする事のない大型重機です。私たち女子会メンバーも一度は搭乗してみたいと思う重機で、初参加の女性も搭乗させていただきました。生徒さん達と同じ様に目をキラキラと輝かせて操作していたのを見て、年齢性別関係なく印象的な貴重な体験になると改めて感じました。

コロナ感染症収束が見えない中、女子会の活動も対面で行う機会が少なくなっています。出雲地区建設業協会青年部会の皆様には、このような貴重な活動にお声がけいただき、大変感謝しております。

建設業界の様々な魅力が少しでも多くの方々に届けられるよう、これからも活動を続けていきたいと思っております。

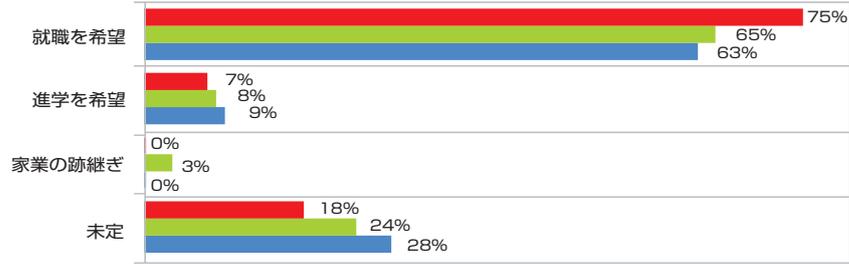


アンケート結果

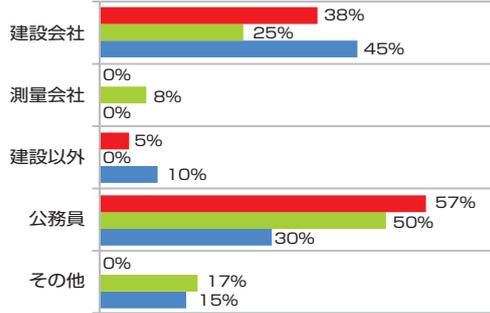
実施日/対象者

- …令和4年10月25日/見学会参加生徒 28名(出雲農林高校28名)
- …令和3年10月26日/見学会参加生徒 40名(出雲農林高校39名、出雲西高校1名)
- …令和2年10月27日/見学会参加生徒 32名(出雲農林高校31名、出雲西高校1名)

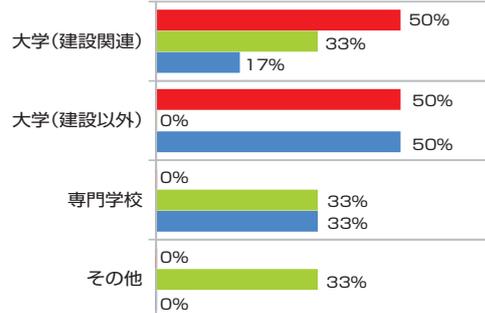
高校卒業後の進路について伺います



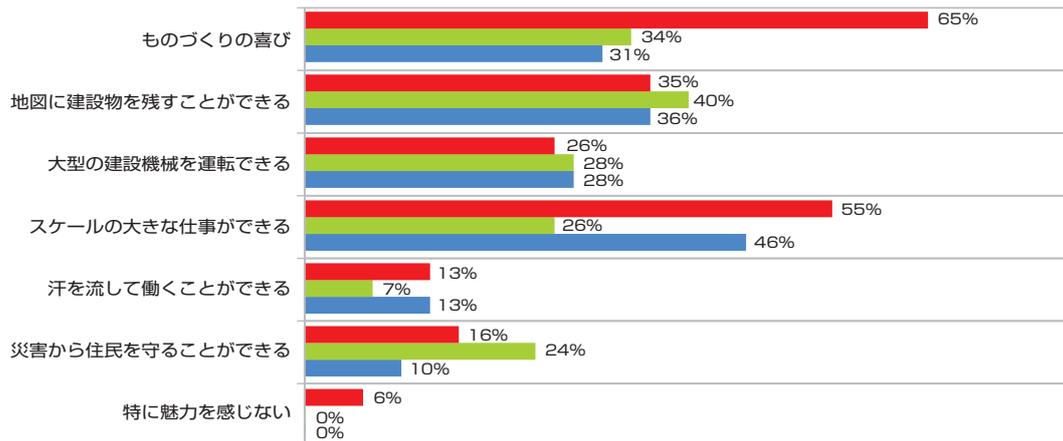
就職を希望した人



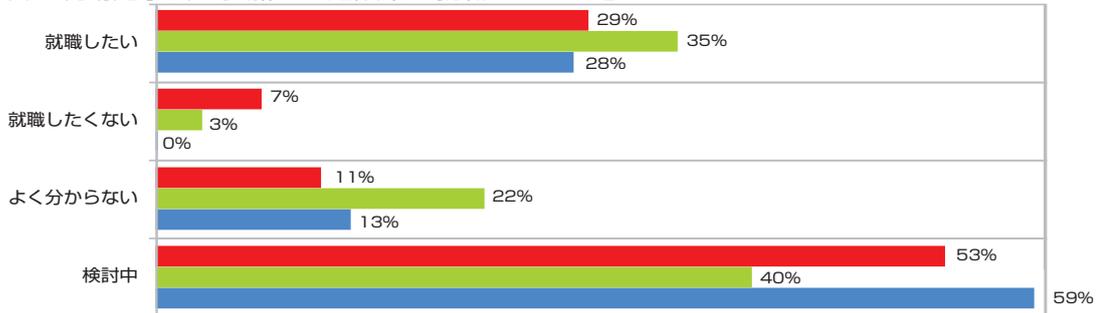
進学を希望した人



建設業の魅力について感じるものは何ですか(複数回答)



本日の現場見学会に参加して建設業に就職したいと思いましたが



アンケート結果(まとめ)

今回の次世代建設就業者育成事業では出雲農林高校より28名の生徒の皆さんに参加いただきました。青年部会ではこの事業を通じて、建設業の魅力を伝え、関心を持ってもらい、将来の進路に役立ててもらうために事業を実施しました。

アンケートの結果では、多くの生徒が就職を希望しているというデータが出ておりますが、その内実は公務員を希望している生徒が多い状況であり、建設会社への就職を希望する生徒はまだ多くない現状があります。

今後建設業に就職するか検討中である生徒も多いため、建設業の魅力ややりがいについて伝えていく機会を増やすことで、一人でも多く建設業へ入職する生徒が増えるようにする努力が必要であると思われます。

生徒が就職する際に、選択してもらえない業界は人材不足となり、事業継続できなくなる危惧があります。各企業での魅力の伝達には限界があります。業界全体で建設業の魅力ややりがいを伝えていかなければなりません。青年部会としては将来の出雲市内の建設業界がさらに発展するために、様々な事業を継続的に行い、若い世代へ建設業の魅力を伝え続けていきたいと思います。

詳しいアンケート結果についてはこちらをご覧ください。

一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会
<http://www.shimakenkyo.or.jp/izumo/>





次世代建設就業者育成事業(現場見学会)を 実施して感じること(考察)

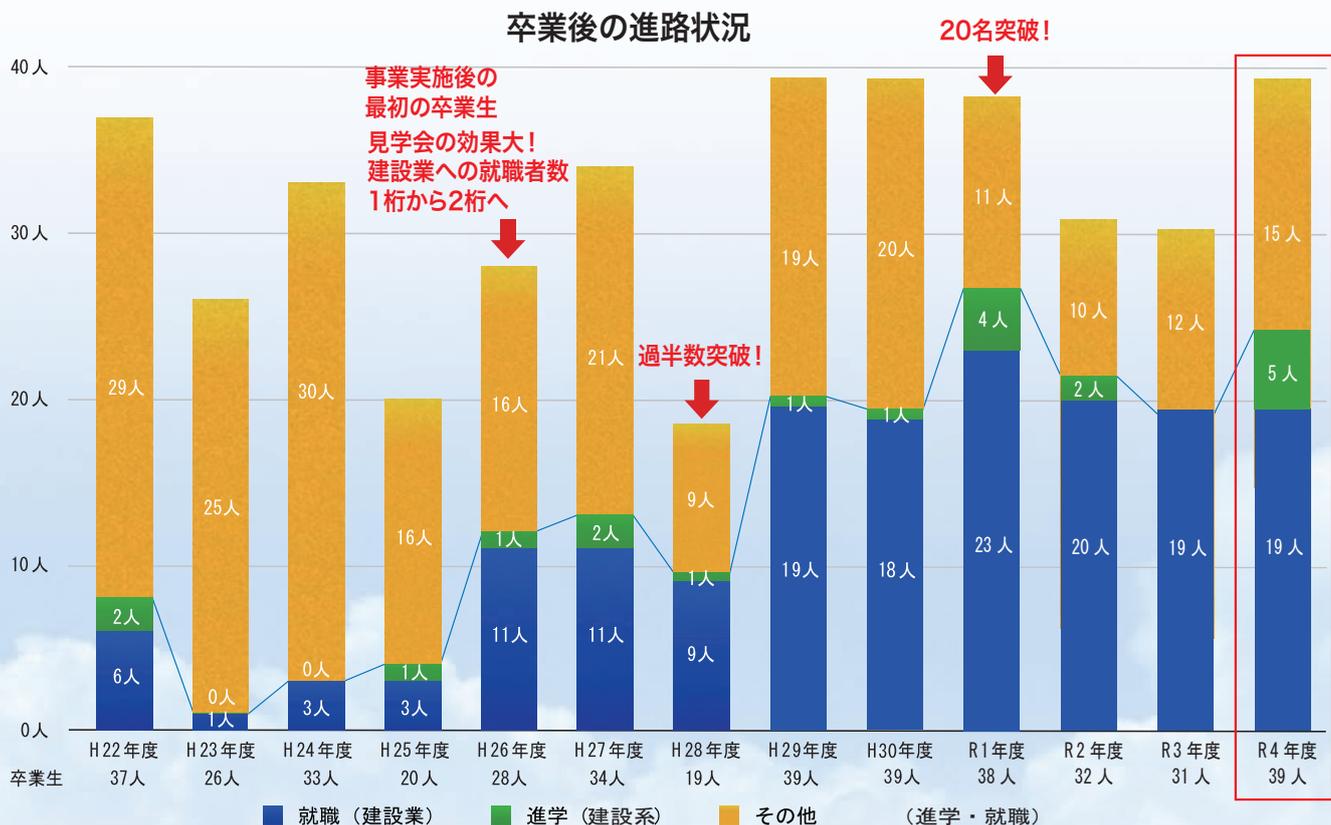
経営研究委員会 委員長

今岡工業(株) 神田 泰弘

次世代建設就業者育成事業(現場見学会)は、平成25年度の実施から今年で10回目となりました。高校卒業後の進路の状況について本事業の開催前と開催後の就職先について調査を行いました。

本事業が開催される前と後では、建設業への就職が飛躍的に増加しています。それは建設業の漠然とした悪印象(3Kなど)が本事業を通して徹底した安全管理、効率化された建設機械作業、デジタル化の推進により作業環境が整ってきている事を知り、そしてものづくりの楽しさ、やりがい直接的に感じることで、今まで以上に建設業への興味や魅力を持っていただいたことが要因だと考えます。

建設業の技術者不足は我々建設業界にとって深刻な問題となっています。青年部会では現場見学会などの活動を通じて一人でも多くの学生が建設業に関心を持ち、将来建設業に関わる職業に就くことを期待し、今後も建設業の魅力を伝えていきたいと思えます。



島根県立出雲農林高校環境科学科 進路決定状況より



出雲農林高校(環境科学科) 中学生一日体験入学支援事業

経営研究委員会 委員

中国道路整備(株) 安部 希芳

令和4年8月3日(水)次世代建設就業者育成事業の一環として、出雲市内外の中学生を対象とした島根県立農林高等学校の一日体験入学に、出雲地区建設業協会青年部会として参加しました。

当日は天候にも恵まれ、午前・午後に分かれて約60名の中学生に建設機械の搭乗体験・動画放映・パネルの展示を行いました。

建設機械の搭乗体験では、初めて建設機械に触れる生徒が多く、緊張した面持ちで説明を聞き、最初はおっかなびっくりの様子で操縦をしていました。短い体験時間の中でも、操縦が上手くできない場面では質問をしながら操縦体験をしていました。搭乗体験が終わる頃にはどの生徒からも笑顔が見え、この体験を楽しんでくれたことに安堵しました。

動画放映・パネル展示については、搭乗体験の待ち時間に見ていただきました。過年度の農林高校生を対象に開催した現場見学会の様子や、青年部会員企業の若手社員(農林高校 環境科学科卒業生)の紹介をしました。パネルを見ながら中学生からは、「休暇はどのくらいありますか?」、「取得しておくの良い資格はなんですか?」、「建設業の魅力はなんですか?」等の質問がありました。

平成28年度から引き続き行っている事業ですが、近年のコロナ禍という特殊な状況の中ではありましたが、農林高校1日体験入学の支援を行う事ができ、良かったと思います。次世代建設就業者育成事業として、将来の技術者となる学生と直接、様々な話をできることがこの事業の最大の利点だと感じています。来年度以降も引き続き支援を行い、建設業へ入職してくれる生徒が1人でも多くなることを願っています。



地域貢献事業報告



第23回ふるさとまるごとクリーンアップ作戦 ～2022道路清掃～

地域貢献委員会 委員長

山口建設(株) 山口 匡 史

出雲地区建設業協会青年部会の事業「ふるさとまるごとクリーンアップ作戦」を出雲県土整備事務所から17名、協力会社から6名、青年部会会員31名、合わせて54名の参加のもと、令和4年7月21日に実施しました。

今回は新型コロナウイルス第7波の到来により、感染者数が爆発的に増加している中での開催となりました。また、7月の開催のため、感染症と熱中症両方の対策を行いました。当日は雨が心配されるほどの曇天で気温も比較的低温、清掃活動のしやすい天候となりました。

今回の清掃活動も昨年同様、出雲市駅周辺の美化活動を行いました。前回は60kg回収できたゴミが、今回はなんと約3分の1となる20kgのゴミしか回収できませんでした。地域の皆様の美化意識の向上はもとより、新型コロナウイルスの影響により出雲市駅周辺の人出の減少が要因だと考えられます。いずれにしても、今回も20kgのゴミを回収しているため、ポイ捨てゴミのすべてがなくなったわけではありません。出雲市駅周辺だけでなく、出雲市全域においてポイ捨てゴミがゼロとなり、より住みやすい出雲市となるよう、今後も青年部会としてもこの清掃活動を継続する必要があると感じました。

最後になりましたが、今回この事業に参加いただきました皆様、大変ありがとうございました。



会員交流事業報告



意見交換会2022

会員交流委員会 委員

昭和開発工業(株) 斎藤 貴弘

令和4年11月2日(水)に出雲地区建設業協会青年部会会員交流委員会の担当する「意見交換会2022」を開催いたしました。

研修会では、出雲建設会館にて、出雲県土整備事務所より企画幹 千葉 正徳 様、東部県民センター出雲事務所より建築課長 石田 里奈 様をお迎えし、ご講演いただきました。

千葉企画幹には「島根県建設工事総合評価方式の主な改正点」をテーマに、総合評価方式の運用手引きをもとに、令和4年8月1日からの改正点など、総合評価方式での技術資料作成に関し参考となるお話をいただきました。

石田建築課長には「出雲地区の建築工事における近況について」をテーマに、出雲管内の今後の長寿命化予算、県営住宅予算やその他の施策的予算についてご説明いただきました。また週休2日促進工事についてもご説明いただき、働き方改革に向けた課題を認識することができました。

研修会でご講演いただいた内容は、青年部会員として今後の業務の参考になる大変貴重なものでした。

研修会終了後は会場を移し、意見交換会を開催いたしました。出雲県土整備事務所から5名もの参加をいただき、受注者・発注者の垣根を越えて様々な観点から意見交換を行いました。業務に関わること以外にも多くのお話をすることができ、参加された受注者・発注者の親睦をより深めることができました。

ご講演いただきました千葉様、石田様には心より感謝を申し上げます。



創立25周年記念事業報告



創立25周年記念研修視察

会員交流委員会 委員長

ヒロシ(株) 落合和典

今年度の視察研修は青年部会創立25周年記念研修視察とし東京の明治記念館において開催された「第27回全国建設青年会議全国大会」へ参加することを目的として12月2日から2日間実施しました。

全国大会では大会プログラムを「建設産業未来予想図～我々が向かうべき姿とは～」として、建設産業がこれから直面する「若者の就業者不足」「事業継続」「建設産業の強靱化問題」などに対する取り組みについて説明がありました。

また、国土交通省技監・吉岡様による特別講演、(株)フクザワコーポレーション代表取締役社長・福澤様と(株)小野組代表取締役社長・小野様による先進事例講演、(株)ワークマン専務取締役・土屋様による講演などをいただきました。さらに式典中には岸田内閣総理大臣をはじめ齊藤国土交通大臣など多くの来賓の方々に祝辞を頂戴し貴重な経験となりました。

講演は非常に参考となる内容で、我々各社が魅力ある会社となる事が今後直面する建設産業全体の問題を解決する第一歩となる事を再認識しました。25年続く出雲地区建設業協会青年部会の活動も建設産業の魅力向上や若者の就業者不足対策として行っている事業も多くあり、今後より一層努力して参る所存です。また、研修後の懇親会では参加された諸先輩方と親睦も深める事ができ大変有意義な時間を過ごす事ができました。

最後に今回の全国大会での実行委員としてご尽力頂いた岩崎部会長と江戸幹事、ご参加いただいた会員の皆様に心からお礼申し上げます。



創立25周年記念祝賀会

総務広報委員会 委員長

(株)トガノ建設 嘉藤雅士

今年度当青年部会は創立25周年を迎え、それを記念して「25周年記念祝賀会」を開催しました。

祝賀会には出雲地区建設業協会 梅野会長、当青年部会 中筋相談役をはじめ、OBの皆様17名、現会員27名、総勢44名で盛大に開催することができました。

祝賀会において、来賓の皆様やOBの皆様より青年部会は失敗を恐れず、何事にも「チャレンジ」をしていくようにとの激励をいただきました。先輩諸兄の激励を受け、当青年部会では今後とも会員相互の研鑽や交流、地域への貢献、建設業の魅力向上などに対して様々な形で「チャレンジ」を行い、先輩諸兄からいただいたバトンを次世代の建設業界へつないでいきたいと考えております。

最後に当日ご参加いただいた皆様、様々な形で当青年部会を支えてくださるすべての方々に感謝を申し上げます。



地域貢献事業報告



放水路記念館まつり

地域貢献委員会 委員

(株)今岡興産 日野 肇

令和4年11月19日(土)国土交通省出雲河川事務所、島根県出雲県土整備事務所、出雲市、しまね建設産業イメージアップ女子会の皆様とともに「放水路記念館まつり」を開催いたしました。

従来の「土木の日記念イベント」から名称が変わり、3年ぶりの開催となり、1400名の来場をいただきました。

青年部会は屋内での土木模型やミニチュア重機の展示とものづくり体験、屋外ではバックホウや高所作業車、タイヤローラー、モーターグレーダーの搭乗体験等のブースを担当しました。

私は高所作業車の搭乗体験を担当しましたが、普段の業務では搭乗する機会がないため、開催前には入念に確認を行いました。搭乗体験中には10m上空に上がり興奮している様子や怖がっている様子など、様々な様子のお客様がいらっしゃいました。何度も体験していただきたいと考えておりましたが、当日の来場者が多く、搭乗体験を待つ長蛇の列ができたので、体験回数に限りがあり、大変残念に思いました。

例年であれば他のブースの様子も見ることができましたが、今年度については大盛況でブースから離れる事ができませんでした。他のブース担当者も同じような状況で、多くの来場者でにぎわい、多くの方に建設業は人々と社会に貢献できるやりがいのある仕事という魅力を発信できたことは良かったと感じました。

最後になりましたが、「放水路記念館まつり」に携わられたすべての皆様、本当にありがとうございました。



新入会員紹介



大福工業(株) 福代 忠

今年度から出雲地区建設業協会青年部会に入会させていただき、総務広報委員会で活動をさせていただいております、大福工業株式会社の福代忠と申します。

弊社へ入社して今年で10年になります。青年部会への入会は不安しかありませんでしたが、活動に参加させていただく中で先輩方に優しく接していただき、入会してよかったと実感しています。

建設業界を取り巻く環境は年々厳しくなっており、様々な課題が掲げられています。

特に県全域での20代就業者数は全体の1割未満に対し、50代以上は5割と若手人材の不足、5年以内での離職率が5割と離職率の高さが問題となっています。

週休2日制の導入やICT施工による生産性の向上は年々進歩してきていますが継続的な人材の確保は業界全体の課題と言えます。

青年部会の活動を通じて若い世代が建設業に興味をもってもらい、仕事に対してやりがいを感じてもらえよう青年部会の一員として何ができるかを常に考えながら、魅力ある業界になるよう精一杯取り組んでまいりますので、まだまだ至らぬ点もあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



昭和開発工業(株) 斎藤 貴弘

今年度より出雲地区建設業協会青年部会に入会させていただきました昭和開発工業株式会社の斎藤貴弘と申します。

出身は群馬県富岡市で、大学進学を機に東京で暮らし、住宅分譲会社で6年勤務しました。その後、妻の地元である出雲市平田町にIターンしました。令和2年7月より昭和開発工業株式会社に入社し、住宅・不動産営業を行っております。

出雲地区建設業協会青年部会に入会するにあたり、地元もこれまでの仕事経験も異なるため不安な気持ちもありますが、青年部会の皆様と多くの交流ができるよう事業や会議に積極的に参加してまいります。

建設産業は地域の守り手として、地域の安全・安心の確保を担っています。しかしながら担い手が不足していると言われて久しく、担い手不足の問題を解決しなければ将来にわたっての建設業の発展は困難であると考えます。一人でも多くの若者に地元の建設産業に入職し活躍していただけるよう、建設産業の魅力を向上させること、そしてその魅力を発信することに努めてまいります。

微力ながら精一杯努めてまいりますのでご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

新入会員紹介



(株)フクダ 福田 佳典

今年度より出雲地区建設業協会青年部会へ入会させていただきました株式会社フクダの福田佳典と申します。県外の大学を卒業後、8年間の役所勤務を経て、生まれ育った地元で貢献したいという思いが募り、株式会社フクダに入社しました。入社後2年が経とうとしていますが、青年部会ではネットワークの構築や、これまで経験に乏しかった工事施工に関わる知識の習得、そして何より出雲の建設業全体を盛り立てられるように努めて参りたいと思います。

地域貢献委員会の副委員長を僭越ながら拝命し、清掃ボランティアや「放水路記念館まつり」、創立25周年記念研修視察などの様々な活動に参加させていただきながら、建設業のポジティブな一面を地域へ発信・浸透させることが青年部会の役目の一つであると感じています。未だ3K（きつい・汚い・危険）のイメージが残る一方で、ICT技術を積極的に活用して働く環境を大きく変化させているのも建設業であるように、地域にとって必要な産業である以上に変革の進む魅力的な業界であることが伝わってほしいと思っています。

そして、将来の建設業を担う仲間同士で切磋琢磨して高め合っていけるよう、微力ながら尽力して参りたいと存じます。

.....



ヒカワ工業(株) 福田 哲也

今年度より出雲地区建設業協会青年部会に入会させていただきましたヒカワ工業株式会社の福田哲也と申します。大学を卒業後、鉄道会社に数年勤務しておりましたが、令和2年度より、弊社に所属しております。

建設業は社会基盤を支える重要な存在であり、激甚化する災害やインフラ老朽化対策など、建設業への期待値は増しています。その一方、建設業で働く人が減少している今の現状を変えていかなければなりません。この青年部会を通して一人でも多くの方が建設業に興味をもってもらえるには何が必要なのかを先輩方と一緒に考えていきたいと思っております。青年部会の多くの活動を通じて建設業の発展に貢献できるように微力ながら尽力していきますので、ご指導のほどよろしくお願いたします。

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会 歴代部会長

初代部会長	山本恭則	平成9年度
第2代部会長	今岡裕統	平成10～13年度
第3代部会長	別所幸雄	平成14～15年度
第4代部会長	広戸 修	平成16～17年度
第5代部会長	久文秀典	平成18～19年度
第6代部会長	山崎章弘	平成20～21年度
第7代部会長	山口 弥	平成22～23年度
第8代部会長	梅野直宏	平成24～27年度
第9代部会長	山崎育男	平成28～29年度
第10代部会長	内藤正和	平成30～令和元年度
第11代部会長	森山竜人	令和2～3年度

編集後記

2月24日ロシア軍がウクライナへ侵攻を開始し、いまだ終息の兆しが見えず建設業界においても燃料、鋼材、生コンなどの資材価格の高騰により公共工事などで事業費の膨張による工事計画への影響が出ており、建設投資が抑制されれば経済全体に悪影響を及ぼしかねないが、なお沈静化の兆しは見えないそんな暗い話題しかない中、FIFAワールドカップカタール2022が開催され日本代表のグループリーグ突破は厳しい下馬評の中、強豪ドイツ、スペインを撃破し決勝トーナメント進出を決めました。惜しくも決勝トーナメントではクロアチアにPK戦の末に敗れましたが、日本に歓喜と感動を与えてくれました。

一人の選手に頼らなくてもそれぞれがチームを支える良いチームになっていたと感じました。

建設業界においては、従業者の減少、高齢化による施工体制の弱体化など厳しい経営環境に置かれており、働き方改革・DXなどによる生産性向上の取り組みもまだ十分な成果を挙げるには至っていません。まだまだ課題は山積みですが、若者の働き方に対する考え方の変化も踏まえて、発注者・受注者がそれぞれの立場で建設産業を支えて行かなければなりません。

最後になりますが、本誌を発行するにあたりご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

総務広報委員会 副委員長 福代 忠

一般社団法人

島根県出雲地区建設業協会青年部会

〒693-0028 出雲市塩冶善行町2-2

TEL : 0853-21-1187 FAX : 0853-21-2454

青年部会の活動および青雲については
出雲地区ホームページからもご覧いただけます。

下記、URL・QRコードより是非ご覧ください。
URL (<http://www.shimakenkyo.or.jp/izumo/>)

